

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	本事業では、全体を3年計画としその全体終了後の3-5年後に達成すべき上位目標として「事業地の地方予防センターを中心とした保健、衛生業務従事者と住民への教育、研修を通じて、母子健康に影響する感染症への適切な予防体制を整え、それらの陽性率を減少させ、発症率を減少させる。」ことを設定している。本事業はその3年次に当たり、以下を上位目標達成の手段として挙げている。 ① 1,2年次実施の、事業地の医療、保健、衛生業務従事者と住民への研修の実施、それを通じ同従事者の意識、スキルと住民の意識の向上と事業地の疫学状況把握、適切な予防体制整備につき、その継続と一層の量的、質的な充実を図る。特に3年次では、研修効果の定着率向上と本事業終了後の現地自主的継続の準備を重点化する。また従来実施南部2省に中部フエ省を加え対象地域を展開し裾野を広げる。 ② ①のより具体化に向け、使用教材の共通DVD化と普及、研修時に少人数面談を研修効果定着と意識確認方法として推進、2年次に実施を見送った現地従事者の日本研修の実施を行なう。 ③ 本事業の出口戦略で必要な要素である、使用ツールの簡易診断キットの相手国での安価大量供給の具体的、現実的準備をする。 3年次事業ではこれら手段の当初設定目標を次に示す様に達成し、上位目標についても、例えば新生児急死の直接原因となるGBS(溶連菌感染症B群)やB型肝炎陽性の母親へのフォローで現地予防、医療機関の具体的連携が実現する等、発症率減少の具体的な第1歩を踏み出す事が出来た。
(2) 事業内容	1. 現地実施地、時期と内容；現地協力先ホーチミン市(HCMC)国立パストール院(PI)と協力し、6月タイニン省(DuongMinhChau(DMC), BenCau(BC)の2地区で、12月フエ省フエ市(HC), PhuVang(PV)の2地区で、2-3月フエ市中央病院で各々行なった。各省地区では、従事者向け研修を地区予防センター(PC)、病院の従事者に行い、住民向け研修と感染症状況把握を小学校児童の母子と産科病院掛付け妊婦に行なった。把握対象感染症は実施全地区でGBS, GMS(同Mutans群、虫菌菌)、HB(B型肝炎)、中央病院でHTLV-1(成人T細胞白血病ウィルス)を調べた。 2. 住民向け研修方法、教材の定式化、意識変化測定；研修教材は2年次の普及版DVD画像と講師の模擬演技を加え、特に今回初実施のフエ省従事者には6月タイニン実施時に招待し見学交流で研修方法の事前学習を進めた。住民の意識変化測定は2年次試験導入した研修後小人数面接を本格導入し、住民と会話を通じて意識確認と知識定着の効果を測定する一方、従事者にも直接担当させ習熟を図った。 3. 日本研修；10月に現地従事者17人を招待し、約1週間東京周辺で9施設を訪問、日本での関連業務実施状況を見学、交流した。 4. 事業地での自律的事業継続、出口戦略基盤準備；タイニン省では3年次事業に際し省独自予算も1部に充当された。出口戦略の要のキット現地生産につき具体的体制準備が開始された。

(3) 達成された成果

1. 事業地従事者、住民研修;申請書目標への達成実績を下表に示す。

被益目標項目	実施前	実施後	目標 増加数	実績増加数	評価
①被研修住民数	1600 人	2400 人	800 人	811 人	達成
被一般研修 従事者数	36	54	18	57	超過 達成
被教育者研修 従事者数	10	27	17	18	達成
②現地単独実施 住民研修回数	3 件	5 件	2 件	15 件 (参加 1974 人)	超過 達成
③陽性者対応の 医、予防提携数	6 人	10 人	4 人	64 人 GBS 妊婦, HB 対象	超過 達成

当初、被研修住民数は 200 人/サイト、被一般研修従事者数はパスツール院、
各省予防センター、各サイトの合計数、被教育者研修従事者数は 2 年次
被一般研修従事者より、各々目標設定。

従事者、住民とも直接の被研修者数は達成した。特に従事者の一般被
研修者は 3 倍を超え実施両省の従事者参加努力の賜である。また住
民被研修者数も現地単独研修分も加えると 3 倍超の達成となる。単
独研修会開催数、医予防提携件数も共に超過達成し、現地での自律的
継続の大きな手掛かりを得た。

2. 従事者、住民の意識向上;6, 12 月両実施結果まとめを下表に示す。

①住民研修の手洗い、うがい、歯磨き、予防認識(アンケート);

手洗い要 の認識	研修前	研修後	感染症、予防知識 の認識	研修前	研修後
帰宅後	30.9%	61.6%	GBS と髄膜炎	4.1%	18.4%
食事前	77.2	84.6	虫菌と感染症	7.1	25.3
トイレ後	83.3	86.2	虫菌 3 大要因	~0	36.5
うがい要 の認識	研修前	研修後	B 型肝炎	~0	40.4
帰宅時	11.3%	36.5%	研修では、特に妊婦に対し、新生児 (乳児)の歯の生え始めからの仕上 げ磨きの重要性を強調した。		
起床時	89.4%	66.4			
喉が痛い時	30.3%	63.9			
歯磨き要の認識		研修前	研修では、特に妊婦に対し、新生児 (乳児)の歯の生え始めからの仕上 げ磨きの重要性を強調した。		
歯磨き習慣あり		99.6%			
起床後		93.9			
食後		53.2			
就寝前		79.5			

・住民の手洗いでは食事前、トイレ後で、うがいの研修では起床時に
つき研修前でも 77~94%が要とし、既に現地でも普及している。一
方帰宅後手洗いでは研修前約 31%と低く、研修後 62%となり、要と
する認識に 200%の向上がみられた。うがいについては、帰宅時の
要認識が研修前 11%と低いが、研修後 37%に上昇し 340%の認識向上
がみられた。歯磨きは、起床後、就寝前歯磨き習慣が既に定着してい

た。感染症予防は 4 項目共 356%以上の認識向上がみられた。
 ・3 年次に本採用した小人数面接では住民との双方向対話有無と意識確認、知識定着の効果を評価した(下表)。双方向対話は 2 年次後半の試行時と同様、座学のみではほぼ 0%の状態から実施で 100%で住民の生の声を直接聞く事が出来た。知識定着も同様に各個人に会話で確認する事で全員の知識定着が確認出来た。

評価項目	内容	座学のみ	小人数 面接後
双方向対話	成立	~0%	100%
意識定着	帰宅時手洗い要の認識	61.6	100
	帰宅時うがい要の認識	36.5	100
	GBS と髄膜炎の関連性認識	18.4	100
	虫歯と感染症の関連性認識	25.3	100
	虫歯 3 大要因の認識	40.1	100

・またその定着知識が実際の習慣化に至る状況を、研修 1-3 月後の無作為抽出した参加者への電話インタビューで評価した。その結果うがい、手洗い、歯磨き 3 項目で 80-100%が以前より習慣的にするようになったとの回答で 50%以上改善の目標は達成した。

②**従事者研修の感染症と予防知識, キット操作スキル**;対象感染症の原因, 予防法等知識, 態度をアンケート, スコアリングで評価した。評価法は、2 年次同様設定合格点 (60 点) 以上の合格者数の研修前後の変化で行い、合格者の 50%増を目標とした。結果を下表に示す。

研修前は 54%であった合格者が研修後 100%となり 85%増加した。住民への説明態度, キット使用, 判定法の実技評価も行った。達成度は上から A-D の 4 ランクとし B 以上を合格とした。結果は右表となり、研修前と研修後の変化から $100/54=1.85$ で 85%の向上がみられた。両評価とも目標 150%を超過達成した。2 年次から向上した要因は実施側のスキルが向上した事によると思われる。

研修前	率
60 点以上得点者率	53.7%
60 点未満得点者率	46.3%
研修後	
60 点以上得点者率	99.9%
60 点未満得点者率	0.1%

人数比	研修前	研修後
A	7.4%	57.0%
B	46.8	42.9
C	44.7	0.1
D	1.7	0

③**その他**;従事者対象の日本研修は予定 17 人に事前準備来日 1 人加え 18 人で教育者研修参加目標 17 人を達成した。日本では妊産婦研修, 地域保健所の虫歯予防活動等見学し、感想文には強い印象を記載している。今回新たに実施のフエ省従事者事前教育として、6 月タイニン省実施へのフエ省従事者の事前見学, 12 月フエ省実施にタイニン省の講師派遣を計画、6 月には 3 人参加したが、12 月は講師都合で中止となったが、フエ省実施は万全に行なわれた。

	3. 持続発展への準備;完了時迄実績は以下で 2 年次より前進した。 <table><tr><th>項目</th><th>内容</th><th>実績</th></tr><tr><td>各省独自予算化</td><td>3 年次事業への 省予算付け</td><td>3 年次タイニン省保健局 5 億 VND 予算で実施</td></tr><tr><td>出口戦略準備 JICA プロジェクト で継続</td><td>新規プロジェクト の準備</td><td>電解手洗い水普及 日本企業窓口で本格評価 現地キット製造, 日越で担当企業決定</td></tr></table> 5. 教材感染症の陽性率等;測定された陽性率等は別表の通り(%)。 ①GBS は、フエ市内妊婦尿検体では大変高く市立病院は陽性者への 出産前フォローを開始した。タイニンでは既に陽性者フォロー等対 策実施試行中である。②GMS, 虫歯は、何れの地区でも子供、妊婦共に 極めて高い。特に DMC, PV 両地区は子供で 100%近く、次期計画虫歯 プロジェクトの主要課題実施地区とする。③HB 抗原陽性率は、2 年 次の様な特異的に高い地域傾向は見出されなかった。④同抗体陽性 率は、出生時にワクチン接種されたとする児童、園児で 50-60%程度 を示し、2 年次同様ワクチン接種効果有の検証となった。⑤HTLV-1 は、擬陽性ながら 1 年次に続き 3 年次も少数だが見出されている。 6. 広報;3 年次新展開のフエ省 PV 地区実施で地元フエ TV 取材があり 同日夜刻定時ニュースで放映された。また 3 年間の実施まとめを世 界保健機構 (WHO) 連携サイトに掲載予定である。	項目	内容	実績	各省独自予算化	3 年次事業への 省予算付け	3 年次タイニン省保健局 5 億 VND 予算で実施	出口戦略準備 JICA プロジェクト で継続	新規プロジェクト の準備	電解手洗い水普及 日本企業窓口で本格評価 現地キット製造, 日越で担当企業決定											
項目	内容	実績																			
各省独自予算化	3 年次事業への 省予算付け	3 年次タイニン省保健局 5 億 VND 予算で実施																			
出口戦略準備 JICA プロジェクト で継続	新規プロジェクト の準備	電解手洗い水普及 日本企業窓口で本格評価 現地キット製造, 日越で担当企業決定																			
(4) 持続発展性	前述((3)4)の様な成果基に出口戦略の展開を開始している。 <table><tr><th>項目</th><th>内容</th><th>施策</th></tr><tr><td rowspan="2">各省独自事業継続</td><td>省既実施研修に 本事業内容反映</td><td>各省 PC 通じ 対応部分補充, 置換</td></tr><tr><td>本事業終了後の 継続予算確保</td><td>保健省に 全土的予算化要請</td></tr><tr><td>既存プロジェクト 提携</td><td>母子手帳全土 普及支援</td><td>手帳の広告財源の 確保で普及支援</td></tr><tr><td rowspan="4">新規プロジェクト 立上</td><td>簡易キット 現地製造</td><td>日越担当企業間での 協力実務作業開始</td></tr><tr><td>GMS, 虫歯抑制 モデル事業</td><td>より積極予防策携え 高保有率地区で展開</td></tr><tr><td>電解手洗い水普及</td><td>現地国立研究所と日 本企業提携, 実証開始</td></tr><tr><td>HB, HTLV-1, デング熱 感染経路調査</td><td>本邦研究機関, 大学と提携検討</td></tr></table> これら施策は何れも具体的作業が開始されている。	項目	内容	施策	各省独自事業継続	省既実施研修に 本事業内容反映	各省 PC 通じ 対応部分補充, 置換	本事業終了後の 継続予算確保	保健省に 全土的予算化要請	既存プロジェクト 提携	母子手帳全土 普及支援	手帳の広告財源の 確保で普及支援	新規プロジェクト 立上	簡易キット 現地製造	日越担当企業間での 協力実務作業開始	GMS, 虫歯抑制 モデル事業	より積極予防策携え 高保有率地区で展開	電解手洗い水普及	現地国立研究所と日 本企業提携, 実証開始	HB, HTLV-1, デング熱 感染経路調査	本邦研究機関, 大学と提携検討
項目	内容	施策																			
各省独自事業継続	省既実施研修に 本事業内容反映	各省 PC 通じ 対応部分補充, 置換																			
	本事業終了後の 継続予算確保	保健省に 全土的予算化要請																			
既存プロジェクト 提携	母子手帳全土 普及支援	手帳の広告財源の 確保で普及支援																			
新規プロジェクト 立上	簡易キット 現地製造	日越担当企業間での 協力実務作業開始																			
	GMS, 虫歯抑制 モデル事業	より積極予防策携え 高保有率地区で展開																			
	電解手洗い水普及	現地国立研究所と日 本企業提携, 実証開始																			
	HB, HTLV-1, デング熱 感染経路調査	本邦研究機関, 大学と提携検討																			